

われらは南小学生



波佐見町立南小学校
学校だより No.3
令和4年6月1日(水)
文責：校長 藤井大作

あきらめないで、みんなでチャレンジした運動会

絶好の運動会日和に恵まれ、青空と5月の風のさわやかさを感じながら運動会を行うことができました。今回のめあてを、スローガンを引用して「あきらめないで、みんなでチャレンジすること」としましたが、見事にめあてを達成することができました。

数年ぶりに復活した「応援合戦」では、6年生を中心にコロナ禍における応援の仕方について、知恵を出し合いながら取り組みました。何より、どの子もゴールまであきらめないで、全力疾走する姿に感動しました。



また、保護者の皆様には、閉会式後、テントや机・椅子の片づけを御協力くださりまして、ありがとうございました。おかげさまで、あっという間にいつもの運動場に戻りました。大変助かりました。全保護者が学校をサポートして下さる姿は、子供たちの手本になります。心より感謝申し上げます。

運動会を通して、学級の絆も高まってきました。6月は、いよいよ落ち着いて学習に取り組ませる時となります。1学期に学ぶべき内容をしっかり身に付けさせるよう職員一同がんばります。

ホームページの御案内

先日より、ホームページによる情報公開を行っています。

まだ、過去のままだなっているところも多くありますが、今、一番ひんぱんに更新しているのが、「学校生活」というページです。

学校名で検索していただくか、右のQRコードから御覧ください。

学校だよりとは異なり、日々の様子をタイムリーにお伝えしています。

週に3回は更新することを目標にしています。



校長室でいつも何をしていますか？

最近、子供たちとも随分親しくなり、いろいろなことを話しかけてくれます。よく尋ねられるのは、「校長室でいつも何をしていますか？」「給食を一人で食べてさみしくないですか？」という素朴で優しさのある質問です。最初は笑い飛ばしていましたが、案外、大事なことがある気がしましたので、今号の裏面は、このことについて綴ってみます。気軽に読んでください。

校長室でいつも何をしていますか？

ある日（月曜日）の私の一日を紹介します。

7：30～【校門前で、全校児童を迎えます。】

安全指導とともに、子供たちに「おはようございます。」と挨拶をします。校長室に戻るまでに運動場を見回り、土日に何か変わったことがないか、遊具に異常がないかを点検します。

8：15～【学校日誌や保健日誌などの公簿に目を通します。】

休みが続いている子供の動向、校内で子供たちがどこでどんなけがをしているか、家庭に連絡した方が良いものを忘れていないかなど、子供と職員の健康安全について点検します。

【校長室に戻り、今後2週間の予定の確認をします。】

教頭先生、教務主任の先生とともに、校長室で確認します。行事や会議の日程の確認だけでなく、前週までにあった課題等の進捗を確認します。

【学級だよりなど、保護者宛てのお便りに目を通します。】

月曜日は、特に学級だよりが多く発行されます。全部読んだ後、発行許可を出します。

【教育委員会などから来た文書に目を通します。】

多くの文書が来ますが、特に大切なものはどれか見極めることに注意しています。職員に伝えること、家庭に伝えること、子供たちに指導することに留意して見極めています。書類に目を通したり、印鑑を押したりしていると、あっという間に給食の時間になります。

給食を一人で食べてさみしくないですか？

11：40～【検食の時間】

遅くても、子供たちが食べる30分前に食べるようにしています。味やおいに変わったところはないか、異物が混入していないか、中まで加熱できているか、味付けは子供にあっているかなど点検します。一人で食べていると、さみしいと思うことがあります。でも、「検食」は安全安心な食事のために大事なので我慢しています。

13：00～【教育計画の点検】

教員が1週間の教育計画（週案）を提出します。教育計画（週案）は時間割に沿って、どんな内容の学習をするのかまとめてあります。それに目を通し、一人一人にコメントを書きます。

【会議に出る】

会議は一日中あるものから2時間くらいのもので、さまざまです。5月は19日間で校内外あわせて18回の会議に出席しました。

17：00～【子供たちが交通事故にあっていないことを確認】

ほとんどの子供たちが下校して、事故の報告がないことを確かめて帰路につきます。子供たちが無事に家に帰り着いたかなと思うとホッとする一時です。

校長という仕事は、283名の児童・教職員の命を預かる大きな責任がありますが、とてもやりがいがある仕事だと思っています。特に大事にしているのは「校長の挨拶」です。校長の思いを語る時間だからです。まず、何を話すか決めて原稿を書きます。なるべく原稿を見ずに言えるよう、家に帰って繰り返し練習します。まだまだ経験不足で上手に言えませんが、自分の思いを言葉に乗せられるよう努力しています。

「日本一短い手紙コンクール」の2018年の入選作品を見ると「校長先生」をテーマにいくつかの手紙が紹介されていました。中には、本校児童が尋ねて来た内容と同じ手紙もありました。ハッとしたのは、愛知県の中학생、永田晴基さんの作品です。

僕のこと知っていますか？僕は全体の中の一人です。いつか見つけてください。

これを読んで、「私はどのくらい子供たちをみているのだろう。一人一人の子供を大切にするためには、もっと見つめる努力をしなければ。」という思いにさせられました。努力していきます。

